

市民文芸

短歌

阿南市春季短歌誌上大会 選

入選 亡き父のうたいてくれし熟田津のひびき

贈らむ海越ゆる子に

湯浅 百世

中学生短歌 優秀作品（令和2年度）

満開の桜まいちる入学式どきどきしながら母と歩いた

福井中1年

柘井 耀乙

桜舞う嬉しく悲しいこの季節桜と共に思い出も舞う

福井中2年

井坂 遥成

友達は桜を見ておりわれひとり桜の向こうの空

福井中2年

小西 陸斗

すすくと育っているよ福井町の元気な筍見守

福井中1年

田部 健太

つていく 帰り道つくし見つけて春を知る止めたペダルを

新野中1年

中村蒼一朗

再びこぎ出す 軒下で並んで食べるわらび餅祖母が作ったひな

新野中2年

生田 柗斗

まつりの日 通学路緑の場所にアクセント一輪咲いたタンポ

新野中1年

久米 裕翔

ポの花 先輩の受験合格ワンチーム一丸になって応援し

新野中1年

瀬藤菜々美

俳句

阿南市俳句連合会 選

ぼんやりと空を楽しむ秋うらら

中分 明美

野鳥園海辺に茱萸や柿の実も

小西 晴美

あの草のいきおい何処へ進む秋

藤本 弘子

神主を待つ間の雑談秋祭

中川よし子

中秋の名月丸く望みたり

古川北斗星

御馳走は友の手打の走り蕎麦

田木 勲

立ち話 前で蜻蛉の宙返り

笹田 知睦

ひぐらしや昭和のミシン窓際に

石井 政子

名月や古酒も新酒に感じをり

久米 浩一

水面にも色移りけり旅紅葉

藤井李華女

川柳

阿南川柳会 田上鶴子 選

喧嘩なぞお止めなさいとお月様

西田 修身

拳銃がドキッとさせる玩具箱

原 公美子

私にもこれなら出来る恩返し

野村 敏子

竹林の風に押されて登る坂

二階千代美

何もかも流れにまかすのが流行

滝川 太郎

不都合は聞き流すべし老いの耳

鈴木レイ子

コロナ後に予約が続く飲み仲間

福良 充雄

見た目より心豊かに生きてます

田上 鶴子

一般応募

積ん読の一冊夜長読み耽る

鳥尾美津子

自己流に語呂合わせするカタカナ語

武田 敏子

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

歳晚書感

原 美智子

烏兔忽忽逼歲終

烏兔忽忽 歲終逼る

世情艱苦去年同

世情の艱苦 去年と同じ

待望疫癘總収兆

待望す 疫癘総べて収まるの兆

人禱明春多好風

人は禱る 明春好風の多きを

歳晚偶成

田中 公

燈火兩三村未寢

灯火兩三 村未だ寝ねず

鐘聲百八歳云彈

鐘聲百八 歳云に彈く

回頭疾疫蔓延日

頭を回らせば 疾疫蔓延の日

唯禱明年四海安

唯だ禱る 明年四海の安きを

歳晚書懷

大地 和子

窓前疎樹拙鳩枝

窓前の疎樹 拙鳩の枝

巢裏風寒日暮時

巢裏風寒からん 日暮の時

破屋老殘添一歳

破屋の老殘 一歳を添え

何來増色鏡中絲

何來色を増す 鏡中の糸

※拙鳩―鳩は巢作りが拙い鳥だといわれている。



【イチゴ(さちのか)】

県内一の早出し産地の本市では10月下旬から出荷が始まります。しっかりした果実は保存性と輸送性にも適しており、主に京阪神市場へ。甘酸のバランスがよく、果肉まで赤くなるため、お菓子作りにもよく利用されます。